

授業科目名： 日本史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村美幸
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 日本史における基本的な流れを理解した上で、それがどういった歴史史料に裏付けられているのかを理解し、説明できるようになる。			
授業の概要 本授業では、日本史がどのように研究されてきたかについて、古代～現代までを対象に残された資料との関係も含めて概説していく。			
授業計画 第1回：高校までの日本史と研究としての日本史 第2回：古代史の研究 第3回：中世史の研究 第4回：近世の天皇 第5回：近世の対外関係 第6回：幕末維新 第7回：近代の天皇 第8回：近代に残る旧藩意識 第9回：明治日本の対外進出 第10回：大正デモクラシー 第11回：政党政治の崩壊と大政翼賛会 第12回：対外進出と国家総力戦 第13回：軍隊の動員と戦時下の社会 第14回：再軍備と日米関係 第15回：現代社会と歴史研究 定期試験			
テキスト 特に使用しない			
参考書・参考資料等 ・岩城卓二ほか編『論点・日本史学』（ミネルヴァ書房、2022年）			
学生に対する評価			

授業内で行うリアクションペーパーの記入30%、定期試験70%

授業科目名： 世界史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井出 匠
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西洋を中心とする世界史の基本的な出来事に関する知識を身につける。 ・政治・経済・文化など、様々な要素が相互に関連しつつ発展していく歴史の流れを、長期的かつ総合的な視点に立って把握する。 ・現代の人々が抱える諸課題の背景や発生要因を、歴史的なプロセスのなかに見出すような問題意識の立て方を学ぶ。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、ヨーロッパを中心とする西洋の古代から現代までの歴史を講義形式で学ぶ。ただしそれとの関わりにおいて、アジアやアフリカなど西洋以外の地域にも言及する。歴史というものを、個別の出来事のたんなる集合体としてではなく、それらが相互に絡み合ったひとつの大きな流れとしてとらえることを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：古代ギリシアの政治と社会</p> <p>第3回：古代ローマ帝国とキリスト教</p> <p>第4回：中世ヨーロッパの国家とキリスト教会</p> <p>第5回：中世ヨーロッパの社会</p> <p>第6回：中世から近世へ</p> <p>第7回：主権国家体制の成立</p> <p>第8回：ヨーロッパと世界システム</p> <p>第9回：産業革命と資本主義</p> <p>第10回：近代市民社会の成立</p> <p>第11回：帝国主義と植民地支配</p> <p>第12回：第一次世界大戦と総力戦</p> <p>第13回：ファシズムと第二次世界大戦</p> <p>第14回：戦後世界の分断と統合</p> <p>第15回：歴史のなかの現在</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

授業において提示する。

参考書・参考資料等

毎回の授業でプリントを配布する。

学生に対する評価

毎回の授業に関するコメント・シート（50%）、期末レポート（50%）

授業科目名： 世界史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：斎藤 賢
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中国史に関する基礎的知識の習得を目標とする。さらに、歴史学の研究を紹介することで、単に事項を暗記することに終始するのではなく、自己を相対化し、大きな流れの中に物事を位置付けて解釈する力を養成する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、中国史の流れを通観しつつ、文化や制度、思想などにも言及する。それにより、中国史を総体として理解することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（及び新石器時代）</p> <p>第2回：殷王朝</p> <p>第3回：西周時代</p> <p>第4回：春秋時代</p> <p>第5回：戦国時代</p> <p>第6回：秦漢帝国</p> <p>第7回：魏晉南北朝</p> <p>第8回：隋唐帝国</p> <p>第9回：宋と遼・金</p> <p>第10回：元朝</p> <p>第11回：明朝</p> <p>第12回：清朝</p> <p>第13回：清末民初</p> <p>第14回：中華民国</p> <p>第15回：現代中国の成立</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業時に提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>富谷至・森田憲司編『概説中国史（上）古代－中世』、昭和堂、2016。</p>			

富谷至・森田憲司編『概説中国史（下）近世－近現代』、昭和堂、2016。

学生に対する評価

毎回の授業に関するコメントシート（45%）、期末レポート（55%）

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松原 宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人文地理学の基礎と応用。人文地理学とはどのような学問かを理解するとともに、地理的見方や考え方に基づいて、地理的事象について、説明することができるようになる。			
授業の概要 人文地理学とは何か、人文地理学の基礎概念としての空間・地域・場所の捉え方について概説する。その上で、人口や都市、産業や資源に関する基礎理論を学び、現代の都市と農村、工業地域の実態と課題を検討する。また、地域的課題として地域間格差を取り上げ、格差是正に向けた世界と日本の地域政策の歴史と現状を学ぶとともに、今後の方向性について考える。			
授業計画 第1回：イントロダクション：人文地理学とは何か？ 第2回：人文地理学の基礎概念：空間・地域・場所 第3回：人口について考える 第4回：都市地理学の基礎理論 第5回：世界都市東京の実態と課題 第6回：地方都市の成長と衰退 第7回：現代日本の農山村 第8回：産業と資源について考える 第9回：企業城下町の変貌 第10回：現代日本の工業地域 第11回：地域間格差の捉え方 第12回：日本の地域政策 第13回：EUの地域政策 第14回：アジアの地域政策 第15回：まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト：とくに使用しない			
参考書・参考資料等：適宜紹介する			
学生に対する評価 期末のレポート（60%）と複数回の小テスト(40%)			

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小倉拓郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>高等学校地理歴史科の自然地理学の基礎的な内容について、地形・気候分野を中心に知識・技能を身に着ける。その上で、自然地理学分野の内容が地理学の諸分野（人文地理学・地誌学）との結びつきを持っていることを理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、自然地理学の基礎的な内容について、地形・気候分野を中心に解説を行う。その上で、防災・減災や人間生活との関わりについても着目しながら理解を深めていく。また、高等学校地理総合必修化に伴い、高校での地形・防災学習の取り扱いについてもグループワークで整理し、教員として自然地理学の内容をどのように教えるかを考える。</p>			
授業計画			
第1回：イントロダクション・自然地理学とは何か？			
第2回：地域を分析するツール：地理情報システム（GIS）			
第3回：惑星としての地球			
第4回：世界と日本の大地形			
第5回：変動地形・火山地形			
第6回：世界と日本の気候			
第7回：地球のエネルギー収支と大気の大循環			
第8回：第四紀の気候変動と海水準変動			
第9回：複数の地形プロセスを反映した地形：河成段丘・沈水海岸・海成段丘			
第10回：高精細地形情報の取得方法 —ドローン・写真測量・LiDAR—			
第11回：簡易地形計測実習：スマートフォンで3Dスキャン			
第12回：自然環境と防災・減災① 2004年福井水害			
第13回：自然環境と防災・減災② 令和6年能登半島地震			
第14回：災害の伝承と可視化：滋賀県愛知川の伝統的治水施設とEco-DRR			
第15回：地形図読図の基礎			
定期試験			
テキスト			
高橋日出男，小泉武栄 編 『地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論』朝倉書店。			

参考書・参考資料等

吉田英嗣 『第二版 はじめての自然地理学』 古今書院.

岩田修二 『統合自然地理学』 東京大学出版会.

太田陽子ほか 『日本列島の地形学』 東京大学出版会

学生に対する評価

期末試験（定期試験）70%，リアクションペーパー・グループワーク30%

授業科目名： 経済地理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松原 宏
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 経済地理学の基礎と応用。経済地理学とはどのような学問かを理解するとともに、立地論と地域経済論の基礎を学び、現代的事象について、説明することができるようになる。			
授業の概要 経済地理学は、生産や消費といった経済現象の空間的側面を扱うもので、産業立地と地域経済に関する基礎理論を習得する。チューネンの農業立地論、ウェーバーの工業立地論、クリスタラーとレッシュの中心地論といった古典的立地論を学ぶとともに、現代への適用可能性を検討する。また、地域経済に関する基礎理論を学び、地域経済の捉え方について理解を深めるとともに、現代の地域経済の課題を考える。			
授業計画 第1回：イントロダクション：経済地理学とは何か？ 第2回：チューネンの農業立地論 第3回：現代農業への適用可能性 第4回：都市土地利用と地代 第5回：ウェーバーの工業立地論 第6回：現代工業の立地論 第7回：立地調整論 第8回：クリスタラーとレッシュの中心地論 第9回：現代商業・サービス業の立地 第10回：都市システム論 第11回：地域経済の捉え方 第12回：地域経済循環と経済基盤説 第13回：地域構造論 第14回：現代地域経済の課題 第15回：まとめ 定期試験は実施しない			
テキスト：とくに使用しない			
参考書・参考資料等：松原 宏編『現代の立地論』・『地域経済論入門 改訂版』古今書院			
学生に対する評価 期末のレポート（60%）と複数回の小テスト(40%)			

授業科目名： 農山漁村活性化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 前田 陽次郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 現在の日本の農山漁村の状況を講義により知り、そこから将来の可能性や活性化策を自ら考えられるようになることを目的とする。			
授業の概要 まず現在の農山漁村の状況を、地域別に経済的側面を中心に解説する。そして、それぞれの地域の特性を活かした活性化策を紹介し、受講生がそれぞれ想定する地域における活性化策を考えられるようにする。			
授業計画 第1回：授業の概要説明、ガイダンス 第2回：農業問題と農村問題 第3回：農村における土地所有の実態 第4回：農業構造問題の変遷 第5回：稲作地域における農村問題 第6回：山間地域における農山村問題 第7回：酪農地域における農山村問題 第8回：日本の国土政策と農山漁村への産業誘致 第9回：農山漁村の担い手問題 第10回：観光による地域活性化政策 第11回：6次産業化と地域振興 第12回：農村における交通問題 第13回：EUの農業政策 第14回：都市近郊農村における問題 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 使用しない。適宜プリント配布等で指示する。			
参考書・参考資料等 小田切徳美編『新しい地域をつくる』岩波書店			

学生に対する評価

期末試験（定期試験）70%，リアクションペーパー30%

授業科目名： 地域産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 勝又悠太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
地域の産業のうち地場産業に関する内容についての知識を身につける。その上で、地場産業をとりまく現状と直面する課題について理解することができる。			
授業の概要			
本講義では、地域の産業として地場産業を取り上げ、その定義を明らかにする。その上で、日本の地場産業全体の動向を踏まえて、代表的な地場産業地域をいくつか取り上げ、産地内での社会的分業や地域社会、制度、地域産業政策などの特徴について学ぶ。そして、地場産業地域のかかえる課題やその対応策について考える。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：地場産業の定義			
第3回：地場産業の分布			
第4回：地場産業の生産動向			
第5回：高度経済成長期の地場産業地域の構造変化①（企業間分業の変化）			
第6回：高度経済成長期の地場産業地域の構造変化②（輸出市場の拡大）			
第7回：グローバル化時代の地場産業地域の構造変化①（企業間分業の変化）			
第8回：グローバル化時代の地場産業地域の構造変化②（海外生産の拡大）			
第9回：地場産業地域の革新①（ブランド化）			
第10回：地場産業地域の革新②（製品転換と新製品開発）			
第11回：地場産業と地域経済			
第12回：地場産業と地域社会			
第13回：地場産業地域の制度			
第14回：地場産業地域の地域産業政策			
第15回：授業全体のまとめ			
定期試験			
テキスト			
使用しません			
参考書・参考資料等			

上野和彦『地場産業産地の革新』古今書院.

学生に対する評価

中間レポート25%、定期試験（定期試験）75%

授業科目名： 観光産業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森嶋 俊行
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>少子高齢化・人口減少社会を迎える現代日本において観光産業は、訪日外国人旅行者の急増などを受け、成長産業として行政や企業により期待を受けている。本授業では受講者が、こうした観光産業の全体像を把握するとともに、様々な事例を通じて観光地と観光産業がどのような関係にあるのか理解し、持続可能な観光開発のための議論ができるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業においてはまず全体の前半で観光産業を構成する様々な要素について概説した後、世界の中の様々な観光地を事例として取り上げ、その特徴や課題について詳説し、受講者の知見を深めていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：観光産業の現況</p> <p>第3回：観光産業政策</p> <p>第4回：観光産業の歴史</p> <p>第5回：旅行産業</p> <p>第6回：現代アーバンツーリズム</p> <p>第7回：ヘリテージツーリズム</p> <p>第8回：産業観光</p> <p>第9回：ダークツーリズム</p> <p>第10回：エコツーリズム</p> <p>第11回：テーマパーク</p> <p>第12回：リゾート</p> <p>第13回：コンテンツツーリズム</p> <p>第14回：福井の観光</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

各回の講義内容ごとに適宜提示する。

参考書・参考資料等

飯塚遼・菊地俊夫(2021)『観光地誌学—観光から地域を読み解く』二宮書店.

神田孝治・森本泉・山本理佳編著(2022)『現代観光地理学への誘い—観光地を読み解く視座と実践』ナカニシヤ出版.

福井一喜(2022)『「無理しない」観光—価値と多様性の再発見』ミネルヴァ書房.

学生に対する評価

平常点(授業内外の諸課題)40%、定期試験60%

授業科目名： 地域発展論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 宮町 良広
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>経済・社会の観点から日本および世界の地域発展について議論します。日本および世界の地域発展をとらえるための考え方を理解し、文章で説明できることを到達目標とします。</p>			
授業の概要			
<p>前半では、日本の諸地域を事例としながら、人口や政策、産業、観光、教育などの視点から地域発展を考察します。後半では、世界経済の地域構成を俯瞰した後、英米の諸地域を事例としながら地域発展を議論し、外資系企業の役割を展望します。</p>			
授業計画			
第1回：ジャンプ・スタート：地域発展とは何か			
第2回：人口からみた日本の地域発展（1）～全国的動向			
第3回：人口からみた日本の地域発展（2）～北陸・福井の動向			
第4回：日本の国土政策と地域発展			
第5回：内発型地域発展としての一村一品運動			
第6回：地域発展における高校教育の役割			
第7回：温泉観光と地域づくり			
第8回：ロケット産業と地域発展			
第9回：グローバル経済と地域発展			
第10回：グローバル経済の空間構造			
第11回：イギリスの地域構造			
第12回：経済のグローバル化とアメリカ農村			
第13回：英米における産業集積と地域発展			
第14回：シリコンバレーの発展			
第15回：外資系企業が地域発展に果たす役割			
定期試験			
テキスト			
文献を配布するか、指定します。			
参考書・参考資料等			
宮町・田原・小林・井口・小長谷(編) 『地域学：地域を可視化し、地域を創る』2024年、古今書院			

学生に対する評価

定期試験と複数回の小テストの合計点 (100%)

授業科目名： 地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森嶋 俊行
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>地理学の中でも、特定の地域に焦点を当てて、その特徴を学び理解していく方法を地誌学的アプローチという。この授業では、受講者が、自然と人文の両面から地理学的な視点を持って世界の様々な地域を観察し、特徴を把握し、説明できるようになるだけでなく、地域の未来について考え、議論できるようになることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業においてはまず全体の前半で地域とはなにか、地理学的、地誌学的なものの見方というのとはどのようなものかということについて概説した後、世界の中の様々な地域を事例として取り上げ、地誌学的な地域の理解がどのようなものか詳説し、受講者の知見を深めていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：地誌学とはなにか？</p> <p>第3回：地域調査の方法</p> <p>第4回：地図の見方・使い方</p> <p>第5回：地域の描き方</p> <p>第6回：大都市の地誌</p> <p>第7回：郊外の地誌</p> <p>第8回：商業・政治都市の地誌</p> <p>第9回：鉱工業都市の地誌</p> <p>第10回：農村の地誌</p> <p>第11回：漁村・山村の地誌</p> <p>第12回：文化観光地の地誌</p> <p>第13回：自然観光地の地誌</p> <p>第14回：福井の地誌</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

上杉和夫・小野瑛亮編(2023)『みわたす・つなげる地誌学』古今書院.

参考書・参考資料等

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編著(2020)『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 第2版』朝倉書店.

学生に対する評価

平常点(授業内外の諸課題)40%、定期試験60%

授業科目名： 地域データ分析 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木和人 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・地域データ、国勢調査や経済センサスなどの政府統計について理解する。 ・地理院地図、地域経済分析システム（RESAS）の利用方法を習得する。 ・特定地域の実態把握と政策立案について、レポートを作成することができる。 			
授業の概要 <p>地域データ、とくに国勢調査や経済センサスなどの政府統計の内容、および地理院地図など地図の基礎知識を習得する。その上で、地域経済分析システム（RESAS）にアクセスし、各種マップを使いこなすとともに、特定地域の実態把握と政策立案について、レポートを作成する。</p>			
授業計画 <p>第1回：イントロダクション：GISとは？</p> <p>第2回：地理院地図の活用1 基本操作</p> <p>第3回：地理院地図の活用2 様々な地図表示</p> <p>第4回：地理院地図の活用3 各種計測機能</p> <p>第5回：地理院地図の活用4 標高・断面図作成</p> <p>第6回：国勢調査や経済センサスなどの政府統計</p> <p>第7回：RESASによる地域経済分析1 RESASの基本操作</p> <p>第8回：RESASによる地域経済分析2 人口動態、地域特性分析</p> <p>第9回：RESASによる地域経済分析3 産業構造、地域経済分析</p> <p>第10回：RESASによる地域経済分析4 観光客の流入・流出データ分析</p> <p>第11回：RESASによる地域経済分析5 地域活性化シナリオ作成</p> <p>第12回：地域経済分析演習1(チームによる地域分析地域設定 テーマ決定、役割分担、仮説の構築)</p> <p>第13回：地域経済分析演習2(チームによる地域分析 データ収集、統計分析、マップ作成)</p> <p>第14回：地域経済分析演習3(チームによる地域分析 分析結果の整理、図表作成、スライド作成)</p> <p>第15回：地域経済分析演習4(チームによるプレゼンテーション プレゼン実施、質疑応答、フィードバック共有、成果の評価)</p> <p>レポート試験</p>			
テキスト <p>青木和人『はじめての地理院地図 -地図学習・防災学習に使おう-』古今書院.</p>			

参考書・参考資料等

青木和人『オープンデータとQGISでゼロからはじめる地図づくり』講談社.

大場亨『ArcGIS8で地域分析入門』古今書院.

高阪宏行・関根智子『GISを利用した社会・経済の空間分析』古今書院.

学生に対する評価

レポート試験70%, リアクションペーパー・グループワーク30%

授業科目名： 地域データ分析Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青木和人
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・GIS（地理情報システム）の基礎概念と分析手法について理解する。 ・汎用的GISソフトウェアであるArcGISの利用方法を習得する。 ・農作物分布図や工場分布図などの地図作成やGIS分析で、レポートを作成することができる。 			
授業の概要			
GIS（地理情報システム）とはどのようなものか、基礎概念と分析手法の流れについて基礎知識を習得する。その上で、汎用的なGISソフトウェアであるArcGISを用いて、地域フィールド演習Ⅰの対象地域での農作物分布図や工場分布図などをコンピュータを使って作成するなど、地図作業を実施する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション：ArcGISとは？			
第2回：ArcGISの基本操作1 インターフェースの理解			
第3回：ArcGISの基本操作2 基本ツールの使用			
第4回：ArcGISの基本操作3 属性データの操作			
第5回：基本的な地図作成1（農作物分布図の作成）			
第6回：基本的な地図作成2（工場分布図の作成）			
第7回：基本的な地図作成3（災害危険区域図の作成）			
第8回：基本的な地図作成3（観光アクセスマップの作成）			
第9回：空間解析1(オーバーレイ解析)			
第10回：空間解析2(バッファ解析)			
第11回：空間解析3(空間結合)			
第12回：地域分析演習1(チームによる地域分析 調査対象地域の決定、課題設定、役割分担、分析計画の立案)			
第13回：地域分析演習2(チームによる地域分析 GISデータの収集、地図作成、空間解析（バッファ・オーバーレイ）の適用)			
第14回：地域分析演習3(チームによる地域分析 分析結果の整理、図表作成、発表用スライドの作成)			
第15回：地域分析演習4(チームによるプレゼンテーション プレゼン実施、質疑応答、フィードバック共有、成果の評価)			
レポート試験			

テキスト
青木和人『オープンデータとQGISでゼロからはじめる地図づくり』講談社.
参考書・参考資料等
青木和人『はじめての地理院地図 -地図学習・防災学習に使おう-』古今書院.
大場亨『ArcGIS8で地域分析入門』古今書院.
高阪宏行・関根智子『GISを利用した社会・経済の空間分析』古今書院.
学生に対する評価
レポート試験70%, リアクションペーパー・グループワーク30%

授業科目名：海外地域 研究A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石丸香苗
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど、人間の積極的な関与が必要になります。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだされた背景について理解しなくてはならない。環境問題と社会や文化のかかわりについての論理的な考え方、物事の原因と結果を結び付け得る想像力・推測力を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国を事例として取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や社会に与える影響についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：ブラジルの歴史 第3回：ブラジルの多様性 第4回：ブラジルの格差 第5回：ブラジルの教育 第6回：人口移動と都市の環境 第7回：ブラジルの医療 第8回：さまざまな環境問題 第9回：ブラジルの小さな農業 第10回：日本とブラジルと福井 第11回：アマゾンの自然と原始共同体 第12回：森林を守る闘争と政治 第13回：環境問題と世界市場 第14回：持続的な開発 第15回：まとめ</p> <p>毎回の小テストと講義後のリフレクションシートで評価を行うため定期試験は行わない</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

踊る!ブラジル:私たちの知らなかった本当の姿(田中 克佳・おたざわ ゆみ 著、2014、小学館)、人種主義の歴史(平野千果子著、2022、岩波新書)

学生に対する評価

毎行う小テスト50%、毎回講義後に行うリフレクションシートの内容50%

授業科目名： 海外地域研究B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤裕美
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>高等学校地理歴史科の世界地理の基礎的な内容について、東南アジアを中心に気候、自然、社会、文化、環境等について幅広い知識を身に着ける。その上で、東南アジアの社会や文化が日本やアジアなどの他地域と、密接な結びつきを持っていることを理解することができる。</p>			
授業の概要			
<p>本講義では、東南アジアを中心に、自然、生業、国家、民族、都市など、地域研究をおこなう際の様々なトピックについて学ぶ。日本と海外の地域社会とのつながりや、貧困、格差、環境問題など、社会的課題を解決するための手法について学ぶ。異なる背景を持つ人々との対話や協力を円滑におこない、グローバルな視野を涵養することを目的とする。</p>			
授業計画			
<p>第1回 ガイダンス、東南アジアの国々 第2回 自然と生業～熱帯雨林とマングローブの希少生物 第3回 国家と民族～多民族国家における国民統合と多文化政策 第4回 都市生活～メガシティにおける人口過密とスラム 第5回 ASEAN経済～日系企業と日本経済との関係 第6回 環境問題～森林破壊と海洋プラスチックごみ 第7回 沿岸域～海洋資源と伝統捕鯨 第8回 日本のなかの多文化社会～技能実習生、看護師、介護士 第9回 サブカルチャーと日本文化の影響 第10回 地場産業と東南アジア人材～農業、漁業、技能実習生 第11回 国際協力の現場 第12回 医療と看護の課題 第13回 食文化と熱帯植物 第14回 民族衣装とエスニシティ 第15回 まとめ～東南アジアと日本</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			

教員が作成したレジュメを配布する

参考書・参考資料等

『東南アジアを知るための50章』今井昭夫、明石書店、2014。

『東南アジア地域研究入門1～3』井上真ほか、慶應義塾大学出版会、2017。

『アジアの多文化社会と国民国家』西川長夫ほか、人文書院、1998。

学生に対する評価

毎回の小テスト100%

授業科目名： 地理歴史科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三橋浩志 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業のテーマ></p> <p>地理歴史科の教育を行うにあたり、教科教育やカリキュラムの概念を知識に留まらず、学習指導にあたっての教材開発の意味や方法、そのための手法を学ぶ。そして、実際に学習指導案を作成し、模擬授業などを行うことで、教員にとって不可欠な地理、歴史学習の授業づくりの知識・技能と考察力を習得する。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程、教科教育学に関する基本的な概念や研究成果を説明することができる。 ・ 主に「地理総合」と「歴史総合」の教科内容について、親学問の見方・考え方を踏まえて教材開発を行い、指導案を作成することができる。その際、ICTを活用する意義を踏まえた指導案を作成することができる。 ・ 地域や地図、歴史や史資料に関心を持ち、地理学や歴史学の見方・考え方をを用いて、自ら調べ、考える態度を持つ。そして、自ら授業づくりを行う意欲と態度を形成する。 			
<p>授業の概要</p> <p>地理歴史科教育の目標・内容について、地理・歴史教育の歴史的な経緯、小中高の連続性などを踏まえ、教科の目標、教科の内容構成（カリキュラム原理）、授業づくりの方法などを理解する。その際は、学習指導要領の内容や変遷を勘案することとする。そして、地理歴史科（地理、日本史、世界史）の授業づくりに向けた学習指導案の作成を行うためのスキルを習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：地理歴史科教育法のオリエンテーション（本講義の目標、概要、進め方）</p> <p>第2回：社会科・地理歴史科の教育目標について（現行学習指導要領に至るまでの社会科・地理歴史科教育の歩みなど）</p> <p>第3回：カリキュラムの必要性と意義、歴史的な経緯（カリキュラムの構成原理、学習指導要領の歴史的な経緯、その目標・内容・全体構造と教材研究の方法・学習評価の考え方など）</p> <p>第4回：学習指導要領における目標・内容・全体構造と教材開発の方法・学習評価の考え方について①（中学校社会科（地理的分野、歴史的分野、公民的分野））</p>			

第5回：学習指導要領における目標・内容・全体構造と教材開発の方法・学習評価の考え方について②
（高等学校「地理総合」、「地理探究」）

第6回：学習指導要領における目標・内容・全体構造と教材開発の方法・学習評価の考え方について③
（高等学校「歴史総合」、「日本史探究」、「世界史探究」）

第7回：地理歴史科の授業づくりの基礎①（学習指導要領と教科書・教材 教科書の比較・実践事例の紹介（模擬授業に向けて））

第8回：地理歴史科の授業づくりの基礎②（学習指導案の作成方法と指導案の構想 指導案の事例（模擬授業に向けて））

第9回：地理歴史科の授業づくりの基礎③（ICTの活用の状況と留意点）

第10回：地理歴史科教育と関連分野①（人権学習との関係）

第11回：地理歴史科教育と関連分野②（道徳教育、主権者教育との関係）

第12回：地理歴史科の授業づくり①（模擬授業に向けた学習指導案の作成）

第13回：地理歴史科の授業づくり②（ペアワークでの指導案の相互評価）

第14回：教科教育研究の基礎①（授業参観の観点、発問の意図の考察など）

第15回：教科教育研究の基礎②（授業実践報告書の実務など）

定期試験

テキスト：

教科書は特に指定しないが、参考文献などは授業のなかで、適宜紹介・指示する。予習、復習も含め、資料・教材内に参考となるホームページなどを掲載する場合がある。

参考書・参考資料等

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（地理歴史編）」（2019年4月）

学生に対する評価

（1）成績評価方法

- ・定期試験規程に基づく前期試験と、各講義内の小レポートを組み合わせで評価する。

（2）成績評価基準・評価の配分等

- ・定期試験；40%
- ・講義内の小レポート；60%（各回を4点×15回）

授業科目名： 地理歴史科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 三橋浩志
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p><授業のテーマ></p> <p>「地理歴史科教育法Ⅰ」の履修を踏まえ、地理歴史科の授業づくりの実践力を養成する。授業づくりにあたっての教材開発の手法などを学ぶ。そして、実際に学習指導案を作成し、模擬授業などを行うことで、教員にとって不可欠な地理、歴史学習の授業づくりの知識・技能と考察力を習得し、実践力を養成する。</p>			
<p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程、教科教育学に関する基本的な概念や研究成果を説明することができる。 ・ 主に「地理総合」と「歴史総合」の教科内容について、親学問の見方・考え方を踏まえて教材開発を行い、指導案を作成することができる。その際、ICTを活用する意義を踏まえた指導案を作成することができる。 ・ 地域や地図、歴史や史資料に関心を持ち、地理学や歴史学の見方・考え方をを用いて、自ら調べ、考える態度を持つ。そして、自ら授業づくりを行う意欲と態度を形成する。 			
授業の概要			
<p>「地理歴史科教育法Ⅰ」の履修を前提に、具体的な地理歴史科の授業を想定した学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業づくりの理論と実践スキルを習得する。その際は、学習評価、現代の課題などについての理解を深めるとともに、背景となる親学問との関係に留意し、効果的な授業形態、さらにICTを活用した授業づくりを行うこととする。</p>			
授業計画			
第1回：年間指導計画と単元の指導計画づくりの実際と留意点			
第2回：学習指導案と授業実践の関係（学習内容と「教材化」の意義を確認）			
第3回：授業テーマの設定/学習指導案の作成①（テーマを踏まえた指導案の記載項目を設定）			
第4回：学習指導案の作成②（本時のねらい、学習内容、史資料の設定などの作成）			
第5回：学習指導案の作成③（指導案を踏まえた発問や指示、板書案の作成）			
第6回：模擬授業と評価①（「地理総合（「地図とGIS」単元）」の模擬授業と相互評価）			
第7回：模擬授業と評価②（「地理総合（「生活文化」単元）」の模擬授業と相互評価）			
第8回：模擬授業と評価③（「地理総合（「国際協力」単元）」の模擬授業と相互評価）			

第9回：模擬授業と評価④（「地理総合（「自然環境と防災」単元）」の模擬授業と相互評価）
 第10回：模擬授業と評価⑤（「歴史総合（「近代化」単元）」の模擬授業と相互評価）
 第11回：模擬授業と評価⑥（「歴史総合（「大衆化」単元）」の模擬授業と相互評価）
 第12回：模擬授業と評価⑦（「歴史総合（「グローバル化」単元）」の模擬授業と相互評価）
 第13回：テーマ別の模擬授業と評価①（地理総合又は歴史総合でのICT活用の模擬授業と相互評価）
 第14回：テーマ別の模擬授業と評価②（地理総合又は歴史総合での人権教育の模擬授業と相互評価）
 第15回：テーマ別の模擬授業と評価③（地理総合又は歴史総合での主権者教育の模擬授業と相互評価）
 定期試験

テキスト：

教科書は特に指定しないが、参考文献などは授業のなかで、適宜紹介・指示する。予習、復習も含め、資料・教材内に参考となるホームページなどを掲載する場合がある。

参考書・参考資料等

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（地理歴史編）」（2019年4月）

学生に対する評価

（1）成績評価方法

- ・定期試験規程に基づく後期試験と、各講義内の小レポートを組み合わせで評価する。

（2）成績評価基準・評価の配分等

- ・定期試験；40%
- ・講義内の小レポート；60%（各回を4点×15回）

授業科目名：道德教育 の理論と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：國崎大恩
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道德教育及び道德科について理論的・実践的理解を深めるとともに、道德科の授業を行うことができるようになることがねらいである。具体的な到達目標は次の通りである。</p> <p>(1) 道德教育に関する理論を説明することができる。</p> <p>(2) 先進的事例を踏まえ、道德教育の実践的課題について説明することができる。</p> <p>(3) 道德科の授業を計画し、指導案を書くことができる。</p> <p>(4) 道德科の授業を振り返り、実践の改善にむけた反省をすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道德教育に関する理論的・実践的事柄を多面的に考察することによって、道德教育に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、それらの知識を応用しながら道德科の指導案作りと模擬授業を行うことで、道德に関する具体的指導力を身につけるとともに反省的实践家として教師に求められる基礎的反省力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： 現在の道德教育をめぐる問題…本授業のねらいと学生の課題設定について</p> <p>第2回： 西洋倫理・道德思想(1)…古代～近代黎明期までの道德思想について</p> <p>第3回： 西洋倫理・道德思想(2)…近代黎明期～現代までの道德思想について</p> <p>第4回： 現代の倫理・道德思想と私たちの社会…道德思想の現代的課題について</p> <p>第5回： 日本における道德教育の歴史(1)…明治～昭和初期までの道德教育の歴史について</p> <p>第6回： 日本における道德教育の歴史(2)…昭和初期～現在までの道德教育の歴史について</p> <p>第7回： 学習指導案の書き方…道德科の学習指導案の書き方について</p> <p>第8回： 道德教育の実践的課題(1)…学校全体で取り組む道德教育に関するケーススタディ</p> <p>第9回： 道德教育の実践的課題(2)…モラルジレンマ授業に関するケーススタディ</p> <p>第10回： 道德教育の実践的課題(3)…道德科の問題解決的な学習に関するケーススタディ</p> <p>第11回： 模擬授業(1)…道德科の模擬授業と授業研究会の実施（内容項目A）</p> <p>第12回： 模擬授業(2)…道德科の模擬授業と授業研究会の実施（内容項目B）</p> <p>第13回： 模擬授業(3)…道德科の模擬授業と授業研究会の実施（内容項目C）</p> <p>第14回： 模擬授業(4)…道德科の模擬授業と授業研究会の実施（内容項目D）</p> <p>第15回： 道德教育のこれから…道德教育の課題と展望に関する議論</p>			

定期試験を実施しない。

テキスト

実践につながる道德教育の理論（國崎大恩・キムマワ一編、北樹出版）

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）

小学校学習指導要領解説 特別の教科道德編（平成29年7月、文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年告示、文部科学省）

中学校学習指導要領解説 特別の教科道德編（平成29年7月、文部科学省）

学生に対する評価

評価方法：模擬授業（30%）、グループディスカッション（20%）、レポート試験（50%）

評価基準：授業目標に掲げた4観点について、模擬授業・グループディスカッション・期末レポートより総合的に評価を行う。

授業科目名：学校インターンシップ（学校体験活動）A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：黒田祐二
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>新年度開始から夏休み（実習校が2学期制の場合は前期）までの期間に学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童生徒の実態や課題を把握したり、学級づくりや学校運営に関する教育活動の特色や工夫を理解したりする。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺町内の小中学校において、児童生徒への学習支援や適応支援、授業準備や事務業務の補助、部活動の補助業務、学校行事での補助業務など、各種支援・補助活動を行う。なお、具体的な活動内容は派遣先の学校に応じて異なる。 ・インターンシップ先での活動内容等を活動記録表に毎回記入し、活動終了後に提出する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス1（実習の目的と留意点）</p> <p>第2回：ガイダンス2（実習校及び実習内容の説明）</p> <p>第3回：各学校での実習1（学校の教育方針等の把握）</p> <p>第4回：各学校での実習2（児童生徒の実態と課題の把握）</p> <p>第5回：各学校での実習3（学級担任の役割）</p> <p>第6回：各学校での実習4（学級運営の把握）</p> <p>第7回：各学校での実習5（一般児童生徒との関わり方）</p> <p>第8回：各学校での実習6（不登校等の児童生徒との関わり方）</p> <p>第9回：各学校での実習7（発達障害等の児童生徒との関わり方）</p> <p>第10回：各学校での実習8（授業の補助）</p> <p>第11回：各学校での実習9（保健室等の補助）</p> <p>第12回：各学校での実習10（学校行事の補助）</p> <p>第13回：各学校での実習11（部活動・クラブ活動の補助）</p> <p>第14回：各学校での実習12（学校事務の補助）</p> <p>第15回：まとめとふり回り</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省『小学校学習指導要領解説（総則編）』（2017年）</p>			

文部科学省『中学校学習指導要領解説（総則編）』（2017年）

文部科学省『生徒指導提要』改訂版（2022年）

学生に対する評価

活動記録表（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名：学校インターンシップ（学校体験活動）B	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：國崎大恩
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>夏休み後（実習校が2学期制の場合は後期）から年度末までの期間に学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して，児童生徒の実態や課題を把握したり，学級運営や学校運営に関する教育活動の特色や工夫を理解したりする。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永平寺町内の小中学校において，児童生徒への学習支援や適応支援，授業準備や事務業務の補助，部活動の補助業務，学校行事での補助業務など，各種支援・補助活動を行う。なお，具体的な活動内容は派遣先の学校に応じて異なる。 ・インターンシップ先での活動内容等を活動記録表に毎回記入し，活動終了後に提出する。 			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（1）—実習の目的と留意点</p> <p>第2回：ガイダンス（2）—実習校の説明と決定</p> <p>第3回：各学校での実習（1）—学校の把握と理解</p> <p>第4回：各学校での実習（2）—学級経営の把握</p> <p>第5回：各学校での実習（3）—児童生徒の実態</p> <p>第6回：各学校での実習（4）—児童生徒との関わり方</p> <p>第7回：各学校での実習（5）—休み時間での児童生徒との関わり</p> <p>第8回：各学校での実習（6）—学校事務の補助</p> <p>第9回：各学校での実習（7）—特別な支援が必要な児童生徒への支援</p> <p>第10回：各学校での実習（8）—授業での教科指導補助</p> <p>第11回：各学校での実習（9）—学校行事の補助</p> <p>第12回：各学校での実習（10）—一部活動の補助</p> <p>第13回：各学校での実習（11）—日本語教育指導での補助</p> <p>第14回：各学校での実習（12）—不登校児童生徒への支援</p> <p>第15回：まとめとふり返り</p> <p>定期試験を実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業中に適宜資料を配付する</p>			

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する

学生に対する評価

期末レポート（50%）、活動記録表（50%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：根田 恵多 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法の基本的な考え方、個々の条文の内容について正確な知識を身につける。現実の憲法問題について自ら考え、自分の意見を論理的・説得的に展開できるようになる。市民として必要な、日本国憲法に関する「教養」を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の基本的な考え方について解説し、現実に社会で起きている様々な憲法問題について、教員と受講生で共に考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス：憲法って何だろう</p> <p>第2回 憲法の歴史と現在</p> <p>第3回 「憲法の番人」としての裁判所</p> <p>第4回 こころの自由</p> <p>第5回 信教の自由vs政教分離</p> <p>第6回 悪口も表現の自由？</p> <p>第7回 教える自由？学ぶ自由？</p> <p>第8回 働く権利、生きる権利</p> <p>第9回 平等・差別・排除</p> <p>第10回 「新しい人権」・・・？</p> <p>第11回 人権の主体：子どもの権利、外国人の権利</p> <p>第12回 捕まったらどうなる？</p> <p>第13回 統治の仕組みと民主主義</p> <p>第14回 全世界の国民が平和に生きる</p> <p>第15回 憲法の「改正」って何？</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト 「教職課程のための憲法入門〔第3版〕」（西原博史、斎藤一久編）弘文堂			
参考書・参考資料等 なし。			
学生に対する評価 毎回提出するコメントシート40%、期末レポート60%で評価する。			

授業科目名： 体育実技 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：石原 一成 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める</p> <p>②健康的な生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する</p> <p>③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る</p> <p>④他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける</p> <p>⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながるスキルの獲得を図る</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。協調、協力、他者への配慮など、集団スポーツに内包される構成要素に着目し、集団における行動能力を高めることをテーマに展開する。</p>			
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス、アイス・ブレイキング</p> <p>第 2 回：グループ分け、ウォーミングアップ、試しのゲーム</p> <p>第 3 回：パス①（ストレート・スピン）、キャッチ等のスキル練習、ミニゲーム</p> <p>第 4 回：パス②（ラインパス・スイッチパス・ループパス）等のスキル練習、ミニゲーム</p> <p>第 5 回：個人技（サイドステップ・スワープ）等のスキル練習、ミニゲーム</p> <p>第 6 回：基礎戦術（アタック・ディフェンス）の習得</p> <p>第 7 回：攻撃と防御①（2 対 1・3 対 2・4 対 3）、ミニゲーム</p> <p>第 8 回：攻撃と防御②（2 対 2・3 対 3・4 対 4）、ミニゲーム</p> <p>第 9 回：攻撃と防御③（3 対 3・4 対 4・5 対 5）、ミニゲーム</p> <p>第 10 回：ゲーム形式での練習（ラグビーのルールと審判法、試合の運営方法）</p> <p>第 11 回：ゲーム①（チームメイトの特性を知る）</p> <p>第 12 回：ゲーム②（チームメイトの特性を活かす）</p> <p>第 13 回：ゲーム③（問題点を修正しながらゲームを楽しむ）</p> <p>第 14 回：ゲーム④（チームとしての勝利を目指してゲームを楽しむ）</p> <p>第 15 回：まとめ、テスト、レポート</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
なし。必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
なし。随時紹介する。			
学生に対する評価			
<p>評価は以下の 3 つの項目を総合的に行う。①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力、状況判断とその対応、コミュニケーション能力）：60%、②集団技能（ゲームの結果や内容をチーム単位で評価）：20%、③基礎理論および説明の理解度：20%。また、実技科目という特性上、4 回以上欠席した場合は単位の修得が非常に困難になる。</p>			

授業科目名： 体育実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：石原 一成 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める</p> <p>②健康的な生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する</p> <p>③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る</p> <p>④他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける</p> <p>⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながるスキルの獲得を図る</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。小人数で気軽に実施でき、生涯スポーツとしても実施可能性の高い個人スポーツを取り上げ、技術的な導入・応用・発展をテーマに展開する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイドダンス、アイス・プレーキング</p> <p>第2回：グループ分け、ウォーミングアップ</p> <p>第3回：フライングディスク①（フライングディスクに慣れよう）</p> <p>第4回：フライングディスク②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第5回：ショートテニス①（ショートテニスに慣れよう）</p> <p>第6回：ショートテニス②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第7回：プレルボール①（プレルボールに慣れよう）</p> <p>第8回：プレルボール②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第9回：ソフトバレーボール①（ソフトバレーボールに慣れよう）</p> <p>第10回：ソフトバレーボール②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第11回：フロアホッケー①（フロアホッケーに慣れよう）</p> <p>第12回：フロアホッケー②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第13回：ソフトラクロス①（ソフトラクロスに慣れよう）</p> <p>第14回：ソフトラクロス②（ゲームをとおして個人技とチーム力をアップさせよう）</p> <p>第15回：まとめ、テスト、レポート</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
なし。必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
なし。随時紹介する。			
学生に対する評価			
<p>評価は以下の3つの項目を総合的に行う。①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力、状況判断とその対応、コミュニケーション能力）：60%、②集団技能（ゲームの結果や内容をチーム単位で評価）：20%、③基礎理論および説明の理解度：20%。また、実技科目という特性上、4回以上欠席した場合は単位の修得が非常に困難になる。</p>			

授業科目名： 体育実技Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石原 一成、彦坂 弘久 担当形態：複数
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める</p> <p>②健康的な生活を確認する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する</p> <p>③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る</p> <p>④他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける</p> <p>⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながるスキルの獲得を図る</p>			
授業の概要			
<p>本科目では、大学教育が担う生涯学習機能の考えのもと、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、大学卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計・実践できる能力を培うことを目指す。学外の施設を利用したコースや、季節の特徴を活かして、集中的に技能を取得することを目指したコースを展開する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、アイス・ブレーキング、教材配布、リスクの確認、書類への記入、水中世界の楽しみ方</p> <p>第2回：学科①（ダイビング器材とその使い方）</p> <p>第3回：学科②（体の機能と水中環境、ダイビングの計画と実施）</p> <p>第4回：学科③（水中の世界、ダイビング経験と継続教育）</p> <p>第5回：学科試験</p> <p>第6回：限定水域実習・海洋実習ガイダンス</p> <p>第7回：限定水域実習①（マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ）</p> <p>第8回：限定水域実習②（器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリ、マスククリア／脱着）</p> <p>第9回：限定水域実習③（浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、水中・水面でのタンク脱着、水面でのウエイトベルト脱着）</p> <p>第10回：海洋実習①（マスククリア、スノーケル呼吸／クリア、フィンキック、ボビング法、サーフェスダイブ）</p> <p>第11回：海洋実習②（器材のセッティング、レギュレータ呼吸、レギュレータ・クリア／リカバリ、マスククリア／脱着）</p> <p>第12回：海洋実習③（浮力コントロール、空気供給、空気供給しながらの浮上、緊急スイミング浮上、緊急浮力浮上、水中・水面でのタンク脱着、水面でのウエイトベルト脱着）</p> <p>第13回：海洋実習④（ファンダイブ）</p> <p>第14回：海洋実習⑤（トレーニングレコード・ログ記入）</p> <p>第15回：まとめ、テスト、レポート</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			
MySSIアプリ（デジタル教材、デジタルログブック）			
参考書・参考資料等			
なし。随時紹介する。			
学生に対する評価			
<p>評価は以下の3つの項目を総合的に行う。①授業に対する積極的な参加態度（受講者との協力、状況判断とその対応、コミュニケーション能力）：60%、②学科試験：20%、③実技試験：20%。</p>			

授業科目名：英語A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 英樹
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校までに学んだ文法事項を基礎から体系的に学び、演習問題を通して知識を定着させる。 ・日常的なコミュニケーションにおいて、文法事項がどのように使われるのかを学び、発信のための語彙力を増強させる。 ・主体的かつ自律的な学習を通して、読み・書きを中心に総合的な英語力の基礎を固める。 			
<p>授業の概要</p> <p>テキストに沿って、高校までの基本的な文法項目、基本的な重要語句表現を確認し、さまざまな問題演習に取り組む。授業では、文法事項の解説と演習をバランスよく組み合わせ、既習事項の復習に終わるのではなく、あらゆる英語運用能力の向上につなげる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Unit 1 be動詞（現在形）</p> <p>第2回：Unit 2 一般動詞（現在形）・Unit 3 be動詞（過去形）</p> <p>第3回：Unit 4 一般動詞（過去形・規則変化）・Unit 5 一般動詞（過去形・不規則変化）</p> <p>第4回：Unit 6 命令文、There is [are]～・Unit 7 itの特別用法</p> <p>第5回：Unit 8 注意すべき疑問文</p> <p>第6回：Unit 9 進行形・Unit 10 未来形</p> <p>第7回：Unit 11 助動詞(1)・Unit 12 助動詞(2)</p> <p>第8回：Unit 13 名詞・冠詞・Unit 14 代名詞</p> <p>第9回：Unit 15 前置詞</p> <p>第10回：Unit 16 形容詞・Unit 17 副詞</p> <p>第11回：Unit 18 比較(1)・Unit 19 比較(2)</p> <p>第12回：Unit 20 接続詞・Unit 21 受け身（受動態）</p> <p>第13回：Unit 22 不定詞・Unit 23 動名詞</p> <p>第14回：Unit 24 分詞</p> <p>第15回：Unit 25 現在完了</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Everyday English Grammar <Fourth Edition>（大学生のためのコミュニケーション英 			

文法〈改訂4版〉) 水島孝司 著、南雲堂、ISBN: 9784523179597

・必要に応じて、別途資料などを追加

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介・配付する

学生に対する評価

定期試験 (70%)、毎回の授業の取り組み・学習態度等 (30%)

授業科目名：英語D	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横田 実世
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教科書を中心にリスニング、文法、リーディングを中心に進めていく。TOEICに出題されやすい英文法を復習しながら英語力を向上する。読んだ内容をどういう形でまとめるか、まとめた内容をどう相手に伝えるかを学び実践できるようにする。さらに与えられたトピック・課題に対して英語でアウトプットをできるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日常生活で当たり前に使っている製品やその製品を作っている会社にフォーカスし、知られざる日本の「ものづくり」企業の世界を英語で学ぶ。特に日本のものづくりの背景を学びながら、文法表現、英語での定義、文章の読み方を再確認する。また授業の一環として学生が興味のあるものづくり企業または製品を見つけて簡単な英語でのプレゼンテーションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>教科書を中心に次の各項目を扱うが、内容や順序は変更する場合もある。</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 Chapter 1: Mazda マツダ自動車</p> <p>第3回 Chapter 2: House ハウス食品</p> <p>第4回 Chapter 3: TOTO TOTO</p> <p>第5回 Chapter 4: Shimano シマノ</p> <p>第6回 Chapter 6: UCC UCC 上島珈琲</p> <p>第7回 Presentation について</p> <p>第8回 復習① (確認テストを含む)</p> <p>第9回 Chapter 7: Daifuku ダイフク</p> <p>第10回 Chapter 8: Sakura Color Products サクラクレパス</p> <p>第11回 Chapter 10: Magokichi Yamaoka (Yanmar) 山岡孫吉ヤンマー</p> <p>第12回 Chapter 11: Otafuku Sauce オタフクソース</p> <p>第13回 学生プレゼンテーション 1</p> <p>第14回 学生プレゼンテーション 2</p> <p>第15回 復習</p> <p>期末試験</p>			

テキスト

Outstanding Monozukuri Companies in Japan (Shohakusha)

(Yoshino N., Harris, J., Inoue O., & Leeming P.)

ISBN 978-4-88198-744-5

参考書・参考資料等

授業中に適宜紹介・配付

学生に対する評価

- ・学習態度（35%）受講態度、授業中の発言・取り組み、課題・プレゼンテーションなどを評価
- ・期末試験（65%）総合的な筆記試験によって授業内容の理解度を評価

授業科目名： データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷川衝 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートなどの解析ツールを適切に使いこなせること。 ・統計学の内容、特に記述統計学の内容を、自ら手を動かすことで理解すること。 ・統計学の知識を基に、データの解析ができるようになること。 			
<p>授業の概要</p> <p>データを扱うために必要なスプレッドシート（Excel または Google スプレッドシート）等の基本操作について学ぶ。また、データを適切に読み解き、説明するために、データの種類（質的データと量的データ）、グラフによるデータの可視化手法、データの分布や代表値、バラつき、相関等からデータの特徴を把握する記述統計学の基礎について演習形式で学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション、スプレッドシートの基本操作 事前学修：パソコンの操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第2回：データの種類（質的データと量的データ）、オープンデータの利用、並べ替え、集計 事前学修：この回に扱うスプレッドシートの基本操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことやオープンデータの利用方法について復習する。</p> <p>第3回：データの可視化（棒グラフ・円グラフ・帯グラフ・折れ線グラフ・ヒートマップ等）と特徴説明、見やすいグラフの書き方と不適切なグラフ表現 事前学修：スプレッドシートを用いたグラフの作成方法を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第4回：データの可視化（ヒストグラム・散布図・対数グラフ）と特徴説明 事前学修：スプレッドシートを用いたグラフの作成方法を確認しておく。 事後学修：この回に学んだこと復習し、各グラフの可視化に関する練習問題に取り組む。</p> <p>第5回：母集団と標本抽出、代表値（平均・中間値・最頻値）、外れ値 事前学修：スプレッドシートの関数の使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習し、代表値の性質の違いに関する練習問題に取り組む。</p> <p>第6回：データのばらつき（分散・標準偏差・偏差値）、箱ひげ図 事前学修：スプレッドシートの関数の使い方を確認しておく。 事後学修：様々なデータのヒストグラムを可視化し、ばらつきに関する練習問題に取り組む。</p> <p>第7回：実践（社会に関するデータの解析） 事前学修：ここまでの単元の復習をしておく。 事後学修：データ解析の結果を考察するための練習問題に取り組む。</p> <p>第8回：正規分布と尖度・歪度 事前学修：ヒストグラムについて復習する。 事後学修：様々なデータの正規分布からの近さを考察する練習問題に取り組む</p>			

第9回：多次元データと相関係数・回帰直線

事前学修：散布図について復習する。

事後学修：様々な多次元データを扱う練習問題に取り組む。

第10回：相関と因果、クロス集計、相関係数行列、散布図行列

事前学修：スプレッドシートの集計機能、関数の使い方を確認する。

事後学修：この回に学んだことを復習し、複数のデータの関連性を扱う練習問題に取り組む。

第11回：モンテカルロ法

事前学修：乱数について予習する。

事後学修：次回・次々回に向けてモンテカルロ法を自由に扱えるようにしておく。

第12回：二項分布と正規分布

事前学修：二項分布について予習する。

事後学修：二項分布で扱える様々な事象に関する練習問題に取り組む。

第13回：ポアソン分布と正規分布

事前学修：ポアソン分布について予習する。

事後学修：ポアソン分布で扱える様々な事象に関する練習問題に取り組む。

第14回：実践（自然科学に関するデータの解析）

事前学修：扱うデータの周辺分野について自習しておく。

事後学修：データ解析の結果を考察する。

第15回：ゲストスピーカー講義または産業界で使われているデータを使った演習

事前学修：ここまでの単元を復習しておく。

事後学修：ゲストスピーカーの話題を自分なりにまとめておく。

補足：解析したデータの考察の際に、グループディスカッションを行う。

ゲストスピーカー講義の実施回は変更になることがある。

本授業の事前・事後学修は、単元によって異なるが、平均して各2時間（計60時間）の学修を目安とする。

テキスト

指定の教科書を使用する（現在作成中）。その他、担当者が作成したWeb上の教材を利用する。

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

各回の課題（40%）、試験（60%）

授業科目名： 情報科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村田知也
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 情報社会の変化や最近の動向、問題を理解している。</p> <p>(2) 情報倫理、データ倫理を身に付けており、様々な脅威に対し、基本的な情報セキュリティ対策がとれる。</p> <p>(3) 様々なメディアの特性を理解し、適切な基準で情報の選択や論理的な分析ができる。</p> <p>(4) コンピュータを構成する要素として、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークの仕組みを理解し、活用できる。</p> <p>(5) AI・データサイエンスを学ぶことの意義、活用領域、使われている技術、AIで出来ることと出来ないことを理解している。</p>			
授業の概要			
<p>情報社会を生きる上で必要な次の知識と思考を学ぶ。</p> <p>(1) 情報社会で起きている変化</p> <p>(2) 情報倫理、情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ</p> <p>(3) 情報をクリティカルに読み解く能力（メディアリテラシー）</p> <p>(4) コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの仕組みと機能</p> <p>(5) 社会におけるデータ・AIの利活用、留意事項</p>			
授業計画			
第1回 インTRODクシヨン			
第2回 第1章：情報社会 — 情報社会への動き、情報社会が抱える問題 — 事前学修：教科書や資料を読んで情報社会で起きている変化を把握する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。			
第3回 第2章：インターネット（1）インターネットの歴史・サービス 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報システムとサービス」について復習する。 事後学修：授業の復習として、インターネットの利便性と危険性を考察する。			
第4回 第2章：インターネット（2）インターネットの仕組み・セキュリティ 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報セキュリティ」について復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。			
第5回 第3章：情報倫理とセキュリティ（1）情報社会への参画、著作権 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報モラル」、「法規と制度」について復習する。 事後学修：授業の復習として、インターネット上の法整備の現状と課題を考察する。			
第6回 第3章：情報倫理とセキュリティ（2）情報を扱ううえでの留意事項、情報セキュリティ 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「情報の管理と保護」、「情報セキュリティ」について復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、教科書の章末問題に取り組む。			
第7回 第4章：メディアリテラシー（1）定義、基本的な視点、クリティカルシンキング 事前学修：高校の「情報Ⅰ」の「メディアリテラシー」について復習する。 事後学修：授業の復習として、SNSやAIがメディアリテラシーとどのように関わっているのかを考察する。			

第 8 回	第 4 章：メディアリテラシー（2）ソーシャルメディア・AI 時代のメディアリテラシー、実践 事前学修：教科書を読んで、情報評価の視点について予習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。
第 9 回	第 5 章：情報とコンピュータ（1）情報とは何か、人体の情報処理、情報をはかる 事前学修：高校の「情報 I」の「情報の特性」、および、対数関数について復習する。 事後学修：授業の復習として、情報量や情報エントロピーの計算方法や意味を確認する。
第 10 回	第 5 章：情報とコンピュータ（2）情報のデジタル表現、情報量と圧縮 事前学修：高校の情報 I の「情報の表し方」、「情報のデジタル化」について復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。
第 11 回	第 6 章：コンピュータの管理：コンピュータの基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークの管理 事前学修：高校の「情報 I」の「コンピュータの構成と動作」、「ネットワークの構成」について復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。
第 12 回	第 7 章：アルゴリズムとプログラミング 事前学修：高校の「情報 I」のアルゴリズムとその表記法を復習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。
第 13 回	第 8 章：人工知能（AI）とデータサイエンス（1）AI の定義・活用事例・歴史・仕組み 事前学修：教科書を読んで、この回に学ぶ内容を予習する。 事後学修：授業の復習として、AI がデータサイエンスにどのように関わっていくかを考察する。
第 14 回	第 8 章：人工知能（AI）とデータサイエンス（2）生成 AI、AI の限界と留意点、データサイエンスのステップ・目的・活用分野 事前学修：教科書を読んで、この回に学ぶ内容を予習する。 事後学修：この単元の確認テスト・課題または、章末問題に取り組む。
第 15 回	まとめ
本授業の事前・事後学修は、単元によって異なるが、平均して各 2 時間（計 60 時間）の学修を目安とする。 授業の進捗により、実施回は前後することがある。ゲストスピーカーによる授業を含む。	
テキスト 徳野淳子・山川修・田中武之共著「情報リテラシー(第 4 版)」森北出版 2022	
参考書・参考資料等	
学生に対する評価 テスト：50%、ミニツツペーパー：30%、レポート課題：20%によって総合的に評価する。	

授業科目名： ICT リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 徳野淳子、田中武之、村田 知也、眞田嵩大
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分のパソコンの基本操作と管理ができる。 • 大学の学修に必要なアプリケーションソフトやクラウドサービスを目的に応じて選択し、適切に使いこなせる。 • 情報倫理や情報セキュリティに関して基本的な知識を身につけている。 • 個人情報や研究データを扱う上での基本的な留意事項を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>大学での学修において、情報システムやネットワークを使いこなせるように、次の項目について演習形式で学習する。</p> <p>(1) パソコンの管理と操作方法</p> <p>(2) レポートや論文・発表資料の作成など学術的な目的での各種アプリケーションソフトやクラウドサービスの利活用</p> <p>(3) 情報倫理や情報セキュリティ等</p> <p>また、大学入学時までに修得すべき内容については、事前学修としてオンデマンド教材を用いて学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第 1 回：授業の進め方、オンライン授業で使用する各種システム、ID とパスワードの管理 事前学修：パソコンを準備し、学内 Wi-Fi に接続しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第 2 回：タッチタイピング、附属図書館の案内 事前学修：キーの配置とタイピングソフトの基本操作を確認しておく。 事後学修：タイピング課題に取り組む。</p> <p>第 3 回：パソコンの設定と管理・セキュリティ対策 事前学修：Windows の基本操作を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。</p> <p>第 4 回：電子メールのマナーとセキュリティ 事前学修：大学のメールシステムの使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。タイピングの課題に取り組む。</p> <p>第 5 回：レポート作成 1 — 文献の探し方、引用と著作権 — 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。</p> <p>第 6 回：レポート作成 2 — レポートの形式、アウトラインの作成 — 事前学修：文書作成ソフトの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：文書作成ソフトを使ってレポートを作成する。</p> <p>第 7 回：レポートの相互評価 事前学修：レポートを完成する。 事後学修：相互評価の結果を踏まえ、レポートを修正する。</p> <p>第 8 回：生成 AI の利活用と利用上の注意点 事前学修：授業で指定された生成 AI の使い方を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p>			

<p>第9回：データ倫理、データの加工と集計 事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第10回：データの可視化と特徴説明 事前学修：データ解析ツールの使い方、この単元で使用する機能を確認しておく。 事後学修：データ分析結果を考察して、まとめる。</p> <p>第11回：情報倫理 事前学修：情報倫理に関するビデオを視聴しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第12回：情報セキュリティ 事前学修：情報セキュリティに関するビデオを視聴しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第13回：クラウドサービスの利活用 ―データの共有と情報公開時の注意点― 事前学修：授業で指定されたクラウドサービスへのアクセス方法と機能を確認しておく。 事後学修：この回に学んだことを復習する。</p> <p>第14回：情報デザインとプレゼンテーション 事前学修：プレゼンテーションソフトの使い方を確認しておく。 事後学修：プレゼンテーション資料を作成する。</p> <p>第15回：この授業で学んだことの発表、まとめ 事前学修：プレゼンテーション資料を完成する。 事後学修：プレゼンテーション資料の修正とこの授業の振り返りを行う。</p> <p>定期試験は実施しない。本授業の事前・事後学修は、単元によって異なるが、平均して各2時間（計60時間）の学修を目安とする。</p>
<p>テキスト 教科書は使用しない。担当者が作成した Web 上の教材を利用する。</p>
<p>参考書・参考資料等 木野富士男，高橋尚子：[演習]アカデミックスキルとしての ICT 活用第2版，技術評論社，2023.</p>
<p>学生に対する評価 各回の学習（40%）、課題（60%）</p>

授業科目名： 教育原理・教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 國崎 大恩
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業の目標は、教育に関する思想と歴史及び教育課程の意義と編成に関する基本的知識を身につけるとともに、教育や学校がどのように成立しているのかを思想的・歴史的観点から考えられるようになること、さらに教育実践の改善につながる教育課程の編成ができるようになることにある。具体的な到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育や学校に関わる思想を参照しながら、教育の本質及び目標について説明できる。 2) 教育や学校の歴史をふまえ、現代における教育課題について説明できる。 3) 具体的事例を通して、効果的な指導にむけたカリキュラム編成について説明できる。 4) カリキュラム・マネジメントに基づいて実践を改善する方法について説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、現代の教育・学校教育を取りまく多様な事象やシステムを教育思想史の観点から概説することで、教育の理念や歴史に関する理解を深めるとともに、現代的な教育課題を理論的・客観的に考察していく。また、教育課程の編成に関する具体的事例の考察を通して、学校において編成される教育課程の意義や編成の方法、とりわけカリキュラム・マネジメントの意義と方法について理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：現代における教育と学校教育—家族・地域・国家による教育と社会の中の教育課程</p> <p>第2回：教育の本質と目標①—教育と「子育て」の関係性</p> <p>第3回：教育の本質と目標②—学習・人間形成と家庭・国家・社会</p> <p>第4回：教育の思想と歴史①—家族・共同体の教育的機能とその変遷</p> <p>第5回：教育の思想と歴史②—〈子ども〉の誕生と近代の教育的まなざし</p> <p>第6回：教育の思想と歴史③—近代教育学における理論と実践の問題</p> <p>第7回：教育の思想と歴史④—新教育運動と子どもの経験の重視</p> <p>第8回：教育の思想と歴史⑤—日本における学校教育の成立とその展開</p> <p>第9回：教育課程の意義—教育課程と学習指導要領</p> <p>第10回：教育課程の役割と機能—〈社会に開かれた教育課程〉とヒドゥン・カリキュラム</p> <p>第11回：教育課程の編成事例①—教育課程の編成原理</p> <p>第12回：教育課程の編成事例②—教科・領域を横断する教育課程</p>			

第13回：教育課程の編成事例③－単元・学期・学年をまたいだ教育課程

第14回：カリキュラム・マネジメント－教育改善のPDCAサイクル

第15回：カリキュラム・マネジメントの実際－事例を通して見る成果と課題

定期試験

テキスト

実践につながる教育原理（國崎大恩・藤川信夫編著、北樹出版）

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月、文部科学省）

学生に対する評価

定期試験（60％）とポートフォリオ（40％）により評価する。

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 國崎 大恩
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育思想史の観点から教育の理念について理解を深めるとともに、教育及び学校の営みを客観的に捉える視点をもつことが本授業の目標である。具体的な到達目標は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育の歴史及び思想に関する基礎的概念について説明することができる。 2) 教育及び学校の変遷について説明することができる。 3) 代表的な教育思想家の考えに基づいて現代における教育課題を考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、教育や学校に関する思想史的理解を深めるため、主に近代以降の教育と学校の変遷について講義及びグループ・ディスカッションを行う。具体的には、「近代教育の誕生」、「学校教育と新教育運動」、「近代教育批判」という3つの大きなテーマに分けて全15回の授業を行い、現代の学校教育が抱える諸課題を近代教育という大きな歴史的流れのなかに位置づけながら考察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：切斷/接続としての「近代」－教育と学校をめぐる大転換－ 第2回：近代教育の誕生①－コメニウスの『大教授学』と『世界図絵』－ 第3回：近代教育の誕生②－ロックの「ジェントルマン教育論」と「貧民教育論」－ 第4回：近代教育の誕生③－ルソーの「市民教育論」と『エミール』－ 第5回：グループ・ディスカッション①－近代教育の構造とは何か－ 第6回：学校教育と新教育運動①－ペスタロッチの「メトーデ」という発想－ 第7回：学校教育と新教育運動②－ヘルバルトとヘルバルト学派教育学－ 第8回：学校教育と新教育運動③－新教育運動の隆起とその背景－ 第9回：学校教育と新教育運動④－アメリカ及びヨーロッパにおける新教育運動の展開－ 第10回：グループ・ディスカッション②－学校教育の発展とその課題－ 第11回：近代教育批判①－近代教育への疑義－ 第12回：近代教育批判②－フーコーの権力分析と学校・病院・監獄－ 第13回：近代教育批判③－正統的周辺参加論と共同体による教育－ 第14回：近代教育批判④－ポストモダン思想と近代教育の（非）接合－ 第15回：グループ・ディスカッション③－現代的教育課題の思想的・歴史的起源－ 定期試験を実施しない。</p>			

テキスト
授業毎に資料を配付する。
参考書・参考資料等
『教育思想史』今井康雄編、有斐閣、2009年。 『教育思想事典 増補改訂版』教育思想史学会編、勁草書房、2017年。
学生に対する評価
レポート試験（50％）、ミニレポート（30％）、グループ・ディスカッション（20％）

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 國崎 大恩
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は現代における教職の意義及び教員の役割・職務内容等について理解することをその目標とする。具体的な到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 今日の学校教育や教職の社会的意義について説明することができる。 2) 学校教育を取りまく環境の変化をふまえ、教員に求められている役割や資質・能力について説明することができる。 3) 教員の職務内容について理解し、その職責について説明することができる。 4) チーム学校運営の重要性を理解し、その連携のあり方について説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>社会の変化とともに教職の重要性はますます高まりつつある。そこで本授業では、教職の意義や教師の役割・職務内容等について幅広く理解し、教職への意欲を高めるとともにその基礎的な資質能力を身につけられるよう、現在の教師や学校を取り巻く複雑な状況を講義及びグループディスカッションを通じて解きほぐしていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクションー「教師になる」とはどういうことかー</p> <p>第2回：近代公教育と教師の社会的意義ー学校教育の成立とその変遷を通してー</p> <p>第3回：「教師」という職業ー子どもを支える多様な職業のなかでー</p> <p>第4回：教職観の変遷ー「金八先生」から「GTO」へと至る教職イメージの変遷ー</p> <p>第5回：現代における教員の役割ー2つの「GTO」から考えるー</p> <p>第6回：学校を取りまく環境の変化と今日の教員に求められる資質・能力</p> <p>第7回：グループディスカッション①ー教職の意義と教員の役割をめぐってー</p> <p>第8回：教師の「多忙」な生活ー多様な職務内容とその遂行ー</p> <p>第9回：学校という組織のあり方ー「校務分掌」と「主幹教諭」・「指導教諭」ー</p> <p>第10回：教師に「できること」と「できないこと」ー学校現場の実情を通してー</p> <p>第11回：教員の資質能力向上を支えるシステムー「学び続ける」教員とその職能成長ー</p> <p>第12回：「全体の奉仕者」としての教師ー「身分上の義務」と「職務上の義務」をめぐってー</p> <p>第13回：学校内外の多様な専門性を活かすこれからの学校教育ー「学級王国」から「連携・協働」へー</p>			

第14回：グループディスカッション②－「チーム学校」における教師の意義と職務・役割－

第15回：まとめ－「教師である」ことのアポリアー

定期試験は実施しない。

テキスト

授業中に適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領(平成30年3月告示、文部科学省)

高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月、文部科学省)

学生に対する評価

評価方法：授業中のミニレポート（30%）、グループディスカッション（20%）、レポート試験（50%）

評価基準：授業目標に掲げた4観点について、ミニレポート・グループディスカッション・期末レポートより総合的に評価を行う。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 桐村 豪文
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①現行の教育制度の内容及び法的根拠について正しく理解した上で、それを歴史的視点、また世界的視点から俯瞰的に捉え、批判的に考えることができる。</p> <p>②学校の自主性・自立性がますます求められる中で、地域社会と連携しながら魅力ある学校をつくっていくという学校経営の思考を興味深く展開することができる。</p> <p>③「ウェルビーイング」（子どものウェルビーイング、教師のウェルビーイング）という観点から学校の役割、機能を再定義するという挑戦的で創造的な思考を興味深く展開することができる。</p>			
授業の概要			
<p>学校における子どもの学びや教師の教育実践を支えると同時に制約する機能をもつ教育制度について、①まずは現行の教育制度がどのような内容（及び法的根拠）であるかを知り、②なぜそのような制度が出来上がったのかを歴史的に理解する。さらに、③他国の教育制度にも視野を広げ、教育制度の在り方を多角的に検討したり、④時代とともに変化する教育課題の実態を理解した上で現行の教育制度を批判的に検討したりすることで、創造的に教育制度に向き合うことのできる力を身につけてもらいたい。また学校経営の観点から、学校の自主性・自立性がますます求められる中で学校に求められる役割、またそれを支援する地方教育行政の在り方について具体的に考えてもらいたい。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンスと「教育の制度」の意義について			
第2回：教育制度と法律（リーガルマインドの重要性）			
第3回：我が国の教育制度の歴史：第一・二の改革			
第4回：我が国の教育制度の歴史：主権回復後の改革			
第5回：我が国の教育制度の歴史：第三の改革（臨時教育審議会、教育改革国民会議）			
第6回：小泉政権の教育改革（自由と自己責任の時代へ）			
第7回：第一次安倍政権の教育改革（品質管理の到来）			
第8回：第二次安倍政権の教育改革（教育課程制度にかかわる改革）			
第9回：第二次安倍政権の教育改革（教育財政制度にかかわる改革）			
第10回：いじめに関する教育制度			

第11回：不登校に関する教育制度

第12回：オルタナティブスクールの可能性（学びの多様化学校、イエナプラン）

第13回：学校安全のためのリスクマネジメント（リスクリテラシーの向上）

第14回：学校の教育力を支える教育委員会の役割

第15回：学校の教育力を高める地域との連携（学校と地域との連携）

定期試験

テキスト

資料等を配布する。

参考書・参考資料等

小川正人・勝野正章『改訂版 教育行政と学校経営』（放送大学教育振興会）

学生に対する評価

以下の2つの要素を総合して成績を付ける。

(1)毎回の授業後に提出してもらう省察レポート

(2)定期試験

60点以上を合格とする。

なお、必要に応じて再試験を実施する。

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺町晋哉
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、教育に関わる事象について、社会学の視点と方法を用いて探求する基礎的な知識について学ぶ。制度としての学校、学校の社会的位置づけ、組織としての学校など、主に学校教育に関わる事柄について、教育社会学の知見を用い、様々な角度からアプローチしていく。また、社会状況が目まぐるしく変化する時代において生じる多様な教育課題の背景や要因について考える。そして、変化が激しい時代だからこそ、地域や保護者との連携が不可欠であることを示していく。さらに、近年注目されつつある学校の安全について、教育社会学の観点からアプローチしていく本授業の目標は、以下の四点である。</p> <p>①多様な教育課題が生じる背景について理解する。</p> <p>②学校や教育制度のもつ社会的機能について理解する。</p> <p>③学校と地域や保護者との連携に関する方法や課題について理解する。</p> <p>④学校の安全及び危機管理について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「学校」はあまりにも当然のように私たちの身近に存在しており、現代社会において「学校」はなくてはならない存在の一つであろう。そうした学校教育において「常識」や「当然」とされてきた事柄について、一歩引いた広い視野から冷静な分析ができるような方法について学ぶ。様々な教育事象の「常識」を問うことによって、自分自身の意見を相対化する方法も学ぶ。また、現代社会の中で学校がもつ機能や、社会が学校に与える影響などについても学ぶ。さらに、変化が激しい現代社会において、学校単独で教育を行うことには限界があることを知り、より効果的な地域・保護者との連携のあり方について学ぶ。最後に、学校における子どもの安全をいかに維持するのかについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会の中の教育</p> <p>第2回：社会の中の教育内容・方法</p> <p>第3回：階層社会と教育</p> <p>第4回：義務教育制度</p> <p>第5回：高校と教育格差</p> <p>第6回：社会の中の教師</p>			

第7回：保護者との関係

第8回：教師と児童生徒関係

第9回：非行・逸脱

第10回：大学進学の効果

第11回：ジェンダーと教育

第12回：マイノリティと教育

第13回：いじめ問題

第14回：不登校

第15回：学校安全

定期試験もしくはレポート

テキスト

中村高康・松岡亮二『現場で使える教育社会学：教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房（2021）

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

平常レポートによる評価40%、試験もしくはレポートによる評価60%。

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田 祐二
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 児童生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習指導や教育のあり方を理解する。			
授業の概要 学習、記憶、動機づけ、心身の発達等に関する基礎的な知識や考え方を講義する。同時に、これらの知識や考え方を応用した指導法や発達段階を踏まえた教育のあり方について講義する。これらを通して、児童生徒の学習や発達を支えるための視点と方法について理解を深められるようにする。			
授業計画 第1回：教育心理学とは何か―学校教育と心理学のかかわり 第2回：学習1―「条件づけ」や「観察学習」等の学習に関する代表的な理論 第3回：学習2―学習理論を応用した教育・指導方法 第4回：記憶1―記憶の性質と仕組み 第5回：記憶2―記憶の定着を促す授業方法 第6回：動機づけ1―動機づけに関する諸理論 第7回：動機づけ2―動機づけ理論を応用した授業や教育の方法 第8回：学習指導法1―アクティブ・ラーニングを促す授業方法 第9回：学習指導法2―授業の実際と指導上の留意点 第10回：教育評価―児童生徒のパフォーマンスの評価方法とその留意点 第11回：社会性と学級集団―社会性の発達と学級運営のあり方 第12回：発達1―心身の発達の基本原理と教育における発達理解及び個人差理解の重要性 第13回：発達2―誕生から幼児期までの心身の発達の道筋と教育のあり方 第14回：発達3―児童期における心身の発達と教育のあり方 第15回：発達4―青年期における心身の発達と教育のあり方 定期試験			
テキスト 黒田祐二(編集)『実践につながる教育心理学 改訂版』(北樹出版, 2021年)			
参考書・参考資料等 授業中に適宜提示する			
学生に対する評価			

定期試験（70%）、小レポート（20%）、授業後の小課題（10%）で評価する

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：乙部 貴幸 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。そのため、(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解すること、(2)乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達の具体的な内容を理解すること、(3)それらの行動・発達を支える脳・遺伝子の基本的メカニズムを理解することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>上記到達目標のため、まず基本的な人間の認知機能を整理して理解した上で、それらが各発達段階においてどのように変化を示すのか、そしてそれらを説明する理論はどのようなものかを講義する。また、折に触れてワークシートを提示し、特に未だ有力な説明がなされていない発達上の現象について、自ら説明を試みることも課していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：15回の計画の概要、人間の発達と心理</p> <p>第2回：人間の認知機能①：感覚・知覚</p> <p>第3回：人間の認知機能②：学習・記憶</p> <p>第4回：人間の認知機能③：感情・社会性</p> <p>第5回：脳の仕組み①：中枢神経系の解剖学的特徴と機能局在</p> <p>第6回：脳の仕組み②：神経伝達物質</p> <p>第7回：行動遺伝学：遺伝と環境の相互作用</p> <p>第8回：胎児期の発達</p> <p>第9回：乳児期前期の発達</p> <p>第10回：乳児期後期の発達</p> <p>第11回：幼児期前期の発達</p> <p>第12回：幼児期後期の発達</p> <p>第13回：児童期の発達</p> <p>第14回：思春期・青年期の発達</p> <p>第15回：未解決問題の議論・まとめ</p> <p>定期試験は実施しない。期末レポートを課す。</p>			
テキスト			

特に指定しない。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総則編（文部科学省、2018 年）

ベーシック発達心理学（開 一夫、齋藤慈子(編)、東京大学出版会、2018 年）

発達心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ 12）（下山晴彦、佐藤隆夫、本郷一夫（監修）、林創（編集）、ミネルヴァ書房、2019 年）

カールソン神経科学テキスト -脳と行動- 原書 13 版 (Neil R. Carlson, Melissa A. Birkett (著), 中村 克樹 (監訳)、丸善出版、2022 年)

学生に対する評価

ワークシート（15%×3回=45%）、期末レポート（55%）

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：清水 聡 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性について理解し、その特性を踏まえた対応を学内のチームおよび学外機関との連携で実施することを理解できるようになることを目標とする。			
授業の概要 特別支援教育の理念、発達障害を中心とした特別支援教育の対象となる幼児児童生徒の特性および特性に応じた対応法について概説し、それを行う学内の体制、学外機関との連携の実際等について事例を挙げながら講述する。適宜小グループによる事例検討も行う。			
授業計画 第1回：特別支援教育の制度の理念と仕組み 第2回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（1）概要、軽度知的障害 第3回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（2）学習障害 第4回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（3）ADHD 第5回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（4）自閉スペクトラム症 第6回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（5）肢体不自由・病弱・身体虚弱・重複障害 第7回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（6）視覚障害・聴覚障害 第8回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（7）母国語や貧困の問題等による特別な教育的ニーズ 第9回：気がかりな幼児児童生徒の理解と対応（8）複数の要因により多様な状態を示す幼児児童生徒 第10回：特別支援教育の体制（1）個別の指導計画と個別の教育支援計画 第11回：特別支援教育の体制（2）校内支援システムと特別支援教育コーディネーター 第12回：特別支援教育の体制（3）通級による指導と自立活動 第13回：保護者との連携 第14回：専門機関や地域との連携 第15回：小グループによる事例検討 定期試験			
テキスト 柘植雅義他編「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」 改訂版 (有斐閣、2014年)			
参考書・参考資料等 適宜プリントを配布する。			
学生に対する評価 学期末試験(70%)、授業途中に課すレポート(30%)			

授業科目名： 特別活動及び総合的な 探究の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原靖浩 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に 関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・総合的な探究の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 ○ 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。 ○ 特別活動の指導の在り方を理解する。 ○ 総合的な学習の時間の意義や、目標及び内容を定める際の考え方を理解する。 ○ 総合的な学習の時間における指導計画の作成及びその指導と評価の考え方を理解し、その 実践において求められる基礎的な力を身につける。			
授業の概要 現実社会とその問題から主題を構築し長期にわたり探究を進める総合的な学習の時間と、民主的で自 治的な能力の形成を図ることを目的とする特別活動への理解を深め、相互の連動性と螺旋性及び教 科学習との重層性を学ぶ。この学びを通して、総合的な学習の時間・特別活動・教科学習を統合する 教師のカリキュラム・マネジメント能力の素地を構築する。			
授業計画 第1回：イントロダクションー特別活動と総合的な学習の時間 第2回：特別活動の目標・内容 第3回：特別活動の位置づけと各教科等との関連 第4回：特別活動の指導原理 第5回：特別活動の指導と支援①ーホームルーム活動 第6回：特別活動の指導と支援②ー生徒会活動 第7回：特別活動の指導と支援③ー学校行事 第8回：特別活動における取り組みの評価・改善活動 第9回：学習指導要領における「総合的な学習の時間」について 第10回：総合的な学習における「探究的な学び」について 第11回：総合的な学習における理論的背景について 第12回：総合的な学習におけるカリキュラム開発について 第13回：総合的な学習における各学校が定める目標について 第14回：総合的な学習における各学校が定める内容について 第15回：総合的な学習における各学校が育成を目指す資質・能力について 定期試験は実施しない。			

テキスト

「高等学校学習指導要領解説(平成30年告示) 特別活動編」文部科学省 東京書籍

「高等学校学習指導要領解説(平成30年告示) 総合的な探究の時間編」文部科学省 東京書籍

参考書・参考資料等

「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」文部科学省

「学校文化を創る特別活動(高校編) ホームルーム活動のすすめ」文部科学省

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開(小、中、高等学校編)」文部科学省

学生に対する評価

ポートフォリオ等による各回の到達目標に対する到達状況の評価(30%)、各授業でのコンファレンスへの参加度(20%)、特別活動、総合的な学習の全体計画と指導案に関するレポート試験(50%)

授業科目名： 教育方法論（情報通信 技術の活用含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 優 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育方法の歴史的展開や現在の動向、教育のデジタル化の推進を理解し、教育実践の位置づけを理解する。 ○授業の構成や分析視点に関する知見、授業におけるデジタル活用の知見を深める。 ○グループでの討議を通じて、レポートをまとめる。 ○教育実践に関して明確な根拠を持ちながら議論することができる。 			
<p>授業の概要：本授業では教師の職務の内、「授業」に焦点を当てる。授業を「観る」「読む」「デザインする」という一連の実践的な行為を通して、授業実践に関する技術や思考を深める。理論的根拠に基づいて、教育方法に関する議論を行っていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の内容や流れの確認）</p> <p>第2回：教育方法と授業の歴史的展開：一斉授業の導入からデジタル活用まで</p> <p>第3回：授業研究の実際と歴史的展開</p> <p>第4回：教育改革のグローバル・トレンド：探究学習とデジタル活用の融合</p> <p>第5回：教育方法とデジタルリテラシー：校務支援及び授業支援システム、AI</p> <p>第6回：授業を観る：デジタル教材を活用した授業研究</p> <p>第7回：授業を省察する：オンライン遠隔システムを活用した実践記録の協働吟味</p> <p>第8回：グループでの授業実践のデザイン1-1学習指導要領と学習指導案</p> <p>第9回：グループでの授業実践のデザイン1-2学習者の深い学びと情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するアクティブ・ラーニング、情報通信技術を効果的に活用した各教科等の学習指導</p> <p>第10回：学習指導案の作成と発表：オンライン遠隔システムを活用した教師の学習</p> <p>第11回：グループでの授業実践のデザイン2-1：探究学習と情報機器・教材、情報通信技術を効果的に活用して学習者の深い学びと情報活用能力（情報モラルを含む）育成を保障する学習指導</p> <p>第12回：グループでの授業実践のデザイン2-2：探究学習と情報機器・教材、情報通信技術を効果的に活用して学習者の深い学びと情報活用能力（情報モラルを含む）育成を保障する学習指導</p> <p>第13回：探究学習と情報機器・教材、情報通信技術を効果的に活用した個人での授業実践とその省察（グループ内でのシミュレーション） 1</p> <p>第14回：探究学習と情報機器・教材、情報通信技術を効果的に活用した個人での授業実践とその省察（グループ内でのシミュレーション） 2</p> <p>第15回：探究学習と情報機器・教材、情報通信技術を効果的に活用した個人での授業実践と</p>			

その省察（グループ内でのシミュレーション） 3 定期試験（レポート）
テキスト 木村優・岸野麻衣（編）『授業研究：実践を変え、理論を革新する』新曜社，2019年
参考書・参考資料等 佐藤学『教育の方法』左右社，2010年 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）
学生に対する評価 講義中に作成する学習指導案の作成と発表（50%）と個人での授業実践及びその省察（50%）で総合的に評価する。 評価の基準：与えられたテーマに対する自分の主張・結論（論拠あり）が書かれているか。複数の視点を総合した論述になっているか。既習事項を踏まえた論述になっているか。授業実践に工夫・配慮がされているか。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：黒田祐二・塚田 孝子・山田智之 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
生徒指導と進路指導の目的を理解し、その目的に沿って指導を進めていく上で必要な知識と方法を身につける。また、校内外の関係者と連携して学校全体で組織的に生徒・進路指導を進めていくことの重要性を理解し、その進め方の具体的な方法について知識を身につける。			
授業の概要			
授業計画の前半は生徒指導、後半は進路指導（キャリア教育）について講義する。どちらにおいても、まず目的や原理について講義し、次に指導の進め方について講義する、という順序で進める。指導に関する授業では、受講生が自ら主体的に考えることができるように、演習やグループ・ディスカッションを取り入れる。外部講師の来校の関係で、一部集中講義での実施となる。			
授業計画			
第1回：生徒指導とは（黒田）			
第2回：生徒指導の原理1—発達観と指導観（黒田）			
第3回：生徒指導の原理2—集団指導と個別指導の方法原理（黒田）			
第4回：児童生徒の理解と指導—児童生徒の心理を踏まえた指導のあり方（黒田）			
第5回：全体指導の進め方—自己肯定感や自己指導能力を育てる生徒指導（黒田）			
第6回：個別指導の進め方1—いじめの理解と対応（塚田）			
第7回：個別指導の進め方2—非行の理解と対応（塚田）			
第8回：個別指導の進め方3—不登校の理解と対応（塚田）			
第9回：個別指導の進め方4—今日的な問題行動と校内外との連携のあり方（黒田）			
第10回：生徒指導上の諸問題—校則や体罰の問題（黒田）			
第11回：進路指導とは（黒田・山田）			
第12回：全体指導の進め方1—ガイダンスとしての指導、キャリア教育の進め方（山田）			
第13回：全体指導の進め方2—キャリア教育の視点を取り入れたカリキュラム、キャリア教育と他の教育活動との関係（山田）			
第14回：個別指導の進め方1—自己理解・自己評価とキャリア形成の関係、ポートフォリオの作成と活用例（山田）			
第15回：個別指導の進め方2—キャリア・カウンセリングの考え方と実践方法（山田）			
定期試験			

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』改訂版（2022年）

参考書・参考資料等

授業中に適宜提示する

学生に対する評価

定期試験（70%）、小レポート（20%）、授業後の小課題（10%）で評価する

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 黒田 祐二 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 児童生徒の発達状況を踏まえつつ、一人一人の心理状態や課題を適切に捉えて支援するために必要な基礎的な知識を身に付ける。			
授業の概要 学校における教育相談の意義と理論、教育相談を進めるために必要な基本的な知識と技法、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性について、講義・演習・実習を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：教育相談とは何か―学校教育における教育相談の位置づけ、目的、方法 第2回：教育相談の進め方1―校内体制の構築と運営、連携とチーム援助 第3回：教育相談の進め方2―校内計画及び個別計画の立案とその留意点 第4回：不応の児童生徒の理解とかかわり―その基本的な視点と方法 第5回：学校不応1―児童生徒のメンタルヘルス上の問題とその対応 第6回：学校不応2―発達障害の理解と対応 第7回：学校不応3―不登校の実態と背景要因 第8回：学校不応4―不登校への対応 第9回：学校不応5―いじめや非行等の理解とその対応 第10回：不応のアセスメント 第11回：学校カウンセリングの理論 第12回：学校カウンセリングの方法 第13回：カウンセリングの実習 第14回：校内外の関係者との連携とその実際 第15回：予防的・開発的援助とその実際 定期試験			
テキスト 黒田祐二（編集）『実践につながる教育相談 改訂版』（北樹出版，2024年）			
参考書・参考資料等 文部科学省『生徒指導提要』改訂版（2022年）			

学生に対する評価

定期試験（80%），授業後の小課題（20%）で評価する

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（高）		単位数：2単位	担当教員名：黒田祐二 國崎大恩		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	15人				
教員の連携・協力体制 学内の教科専門担当教員と連携し、教科指導（模擬授業等）に関して指導や助言を頂くなどの協力体制を作る。					
授業のテーマ及び到達目標 1. 卒業後に教育現場で働くことを見据えた上で、教師としての力量と資質が4年間の学習を通して身についたかどうかを確認することを目的とする。 2. これまでの学習をふり返り、それぞれ教師になるための課題を見つけ、その課題を解決することを通して教師としての力量と資質を向上させることを目的とする。					
授業の概要 教科指導、学級運営、学校内外の関係者との人間関係、生徒理解・指導など、教師としての力量や資質が問われる場면을複数取り上げ、それぞれの場面で演習や実習を行うことで、教師としての力量と資質を総合的に確認する。また、教育実習のふり返りや4年間の学習の記録である「履修カルテ」を基に、教師になるための課題をみつけ、課題の克服を意識しながら学習を進めていく。教科指導・模擬授業（授業計画の第8回～14回）に関しては、教科専門担当教員からの指導・助言を参考に、専門的資質の確認と向上を図る。					
授業計画 第1回：イントロダクション：これまでの学習のふり返りを含むオリエンテーション 第2回：教職の意義と教師としての責任に関するグループ討論 第3回：教師と人間関係1：生徒や保護者との関係に関する事例研究・役割演技 第4回：教師と人間関係2：同僚教師や関係者との関係および協働についての役割演技 第5回：生徒理解・指導1：学校不適應の理解と対応に関する事例研究・役割演技 第6回：生徒理解・指導2：進路指導と職業教育に関する事例研究・役割演技 第7回：学級運営、特別活動（ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事）、及び部活動での指導に関する事例研究・役割演技 第8回：教科指導1：ICTの活用を含む授業のスキルに関する講義・フィールドワーク 第9回：教科指導2：モデル授業に関するフィールドワーク 第10回：模擬授業とディスカッション1－授業内容に即した生徒と教師のコミュニケーションの取り方－ 第11回：模擬授業とディスカッション2－授業内容に沿った効果的な教材の使用－ 第12回：模擬授業とディスカッション3－授業内容をうまく伝えるプレゼンテーションのあり方－ 第13回：模擬授業とディスカッション4－グループ学習・グループディスカッション等の授業への導入－ 第14回：模擬授業とディスカッション5－授業における達成目標の設定と評価のあり方－ 第15回：まとめと振り返り					

定期試験は実施しない

テキスト

必要に応じて資料を配付する

参考書・参考資料等

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編・理科編・商業編・農業編・水産編・福祉編』文部科学省

学生に対する評価

レポート（70%）及び模擬授業の評価（30%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。